

歓迎されるブランゲ雑誌マイクロフィッシュ

山本 武利（政治経済学部教授）

ブランゲ文庫*は米国メリーランド大学が所蔵する占領期日本の雑誌、新聞、図書などのメディアの貴重な宝庫である。これらの紙誌の多くが日本には所蔵されていない。同大学と国立国会図書館が協力してこれらのマイクロ化という事業を行っている。このたび本館で購入された雑誌マイクロフィッシュはその数63,131枚、タイトル数13,787、推定ページ数610万にもなる膨大なものである。

メリーランド大学が販売しはじめたこのフィッシュは、全国の大学でぼつぼつ購入されているようだ。しかしその価格がきわめて高いため、フルセットで所有する機関は全国で5本の指を数えるほどである。その1つに本学が加わった。

その目録を見ると、「早稲田」の冠の付いた雑誌は『早稲田文学』をはじめ『早稲田中学講義』、『早稲田文学講義』、『早稲田式速記講義録』などの講義録、『早稲田法学』、『早稲田政治経済学雑誌』などの紀要、『Waseda sports』がある。他のところをざっと見ると、早稲田大学人文科学研究『人文科学研究』、早稲田大学学園誌刊行会『学園』、早稲田中学雑誌会『稲友』などが目に入った。もっと時間をかければ、サークルやゼミなどの雑誌もたくさん発見されるはずである。

ブランゲ文庫といえば、1945年から1949年の間、GHQが検閲目的に集めた雑誌であるため、検閲研究の資料という誤解がある。もちろん検閲研究に

は不可欠である。しかし社会科学、人文科学の分野だけでなく自然科学の分野の雑誌が収集されている。当時の水準や成果を示す雑誌が網羅されているこのフィッシュは、本学の研究全般に寄与すると思われる。

メディア史をテーマにしている私はかつて占領期を対象にした『紙芝居』**という本をまとめるときに、このマイクロフィッシュにはじめて国会図書館で接した。『紙芝居』といった雑誌は目録ですぐに分かるため利用できたが、その他の雑誌にどんな関連記事があるかは皆目見当がつかなかった。アナログ的な長年鍛えた勘もきかなかった。そこでこの資料群を活用するためには、目次のデータベースが不可欠と思い、「占領期雑誌目録データベース」作成を志した。

占領期雑誌記事情報データベース化プロジェクト委員会（代表・山本武利）を結成し、日本学術振興会の平成12～15年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）を得て、このブランゲ文庫コレクションの全雑誌、全号の表紙・目次等から著者名、記事・論文タイトル名、本文小見出し、分類記号、分類項目、検閲に関する情報、巻号、発行所（出版者）、発行年月日、発行地などの情報を入力した。現在<http://www.prangedb.jp/>で無料公開している。

以下がデータベースの雑誌ジャンル別記事レコード入力数である。

占領期雑誌目録データベース記事レコード数

年度(平成)	雑誌ジャンル(タイトル数)	記事レコード数
12	政治・法律・行政(408)//経済(600)//社会・労働(371) 教育(359)	320,587 48,077
13	芸術・言語・文学(3,163) 歴史・地理(512)//哲学・宗教(230)	454,934 118,600
14	科学技術(1,724)	327,381
15	書誌・図書館学(115)//一般誌(971)//一般学術誌(19)//児童誌(508)	410,952
16	小冊子(2,000)	341,945
	合計	2,022,476

私は友人たちと数年来、国会図書館のフィッシュを使いながら、このデータベースのヒット率を高めるためのシリーズ作りを行っている。フィッシュが身近に使えるようになったため、我々の研究は飛躍的に前進するだろう。

* The Gordon W. Prange Collection kept at the University of Maryland

**『紙芝居：街角のメディア』吉川弘文館、2000年